

Press Release

2025年1月11日

報道機関各位



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

広報室

(Tel 0798-45-3533)

(E-mail kohos@mukogawa-u.ac.jp)

阪神・淡路大震災から30年。

当時をしのぶ企画展を中央図書館で開催しています。

阪神・淡路大震災から1月17日で30年となるのを前に、当時の図書館の被害状況がわかる写真や、防災に関する本を並べた展示「震災30年企画展」が1月10日、中央図書館2階グローバルスタジオで始まりました。1月31日まで開催します。

阪神・淡路大震災を知らない現在の学生に当時の状況を知ってもらい、記憶の風化を防ぎ、いつ訪れるかわからない自然災害への備えを新たにしてもらうため、多くの学生が集う図書館での開催を決めました。

1995年1月17日の阪神・淡路大震災では、西宮市に拠点を置く本学も多数の学生、教職員、卒業生が被災し、在学学生3人、教職員3人が亡くなりました。中央キャンパスでは壁面のひび割れやタイルの剥離、天井ボードの落下などがみられ、浜甲子園キャンパスや総合グラウンドは液状化現象で地割れや地盤低下が発生しました。

そんな中でも大学・短大、附属中高の入試は応急復旧で予定通り実施にこぎつけました。当時の日下晃理事長は被災した県内の大学・短大の先頭に立って、「阪神地区被災私立大学・短期大学連絡会」を設立し、教育環境の維持、復興に奔走しました。学生たちも被害の差こそあれ震災の影響を受けながらも、自主的にボランティアに手を挙げ、教職員は専門を生かしてカウンセリングなどを行い、被災者を支援しました。

本学が当時を忘れないために常設しているのが中央図書館2階の震災コーナーです。亡くなった学生の一人、村田恵子さんの遺族から寄贈された手書きの卒業論文など遺品の展示

と、震災関連の書籍を学生たちが集うフロアの一角に集めています。

中央図書館は当時、竣工したばかりでしたが、本棚が倒れ、本が散乱する被害を受けました。企画展では震災直後の図書館の写真5点、防災に関する本30冊を展示しているほか、「みんな情報共有して災害に備えよう」と題して、来場者が防災グッズや、家の中で気を付けていることなどを付箋に書いて、共有できるコーナーを設置しています。また、当時を知る職員が震災直後の様子を記録した写真を背景に、被害の状況や復興に取り組んだ様子を語る映像を放映します。

この件に関する取材のお申込み、お問い合わせは武庫川女子大学広報室

Tel 0798-45-3533

E-mail kohos@mukogawa-u.ac.jp

へお願いします。

震災当時の図書館内部



企画展の様子

